

令和元年度愛知県食育推進会議 会議録

1 日時

令和元年5月22日（水）午後2時50分から午後4時5分まで

2 場所

KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

3 出席者

委員 27名

説明のために出席した者 農業水産局技監始め 32名

4 議事の概要

(1) 開会

ただ今より、令和元年度愛知県食育推進会議を開催いたします。

私は進行役を務めます、愛知県農業水産局農政部長の平田でございます。よろしくお願ひします。

本来であれば、まず初めに愛知県食育推進会議会長であります大村知事から御挨拶を申し上げるところでございますが、先ほど御説明いたしました通り、急な公務が入ったため、食育推進全国大会愛知県実行委員会設立総会の冒頭で森岡副知事が代理で御挨拶(※)を申し上げましたもので変えさせていただきます。

(2) 委員の出席等

本来であれば、本日出席いただいた皆様お一人お一人を御紹介させていただくところでございますが、時間の都合もあり、大変恐縮でございますが、お手元の出席者名簿に変えさせていただきます。

お手元の愛知県食育推進会議委員名簿を御覧ください。

本日は委員29名のうち2名御欠席で、27名の委員の方に御出席いただいております。

愛知県食育推進会議条例第4条の3の規定の「半数以上の委員の出席」を満たしておりますことを御報告申し上げます。

また、本日の会議資料につきましては、次第の一番下の段に配布資料ということで、一覧で書いてございます。

説明中に、もし、無いものがありましたら手を挙げて係の方にお申し付けください。

なお、会議終了時刻は午後4時20分頃を予定しております。

それでは、会長代理であります中根農業水産局長に議事の進行の取り回しをお願いいたします。

(3) 会議録署名人の指名

それではお手元の次第に従いまして議事を進行させていただきます。

本日も審議いただくのは、愛知食育いきいきレポート2019(案)について、愛知食育いきいきプラン2020の推進について、それと、次期愛知県食育推進計画、あいち食育いきいきプラン2025、これは仮でございますが、この作成についての3議題を予定しております。

続いて、本日の会議録の署名人についてであります。一般社団法人愛知県歯

科医師会の内堀委員と愛知県漁業協同組合連合会の和出委員にお願いをしたいと存じますのでよろしく願いいたします。

(4) 議事

ア 「あいち食育いきいきレポート 2019」(案) について

議長

議題(1) あいち食育いきいきレポート 2019(案) について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料1により説明。

議長

あいち食育いきいきレポート 2019(案) について説明いたしましたので、皆様方から御意見、御質問等ありましたら承りたいと思います。

御意見、御質問のある方は挙手をお願いしたいと思います。

マイクをお持ちいたしますので、団体・組織名とお名前をおっしゃってから御発言をいただけたらと思います。

【意見・質問等】

なし

議長

御意見等ございませんので、議題(1) につきましては原案のとおり公表をさせていただきますと思います。

なお、最終的な調整につきましては、事務局に一任いただくことで御了解いただきたいと思います。よろしくをお願いします。

イ 「あいち食育いきいきプラン 2020」の推進について

議長

次に議題(2) の「あいち食育いきいきプラン 2020」の推進についてであります。

初めに資料2 に基づきプランにおける食育の目標の進捗状況について、事務局から説明してください。

【事務局】

「あいち食育いきいきプラン 2020」概要版、資料2 及び参考資料により説明。

議長

続きまして、資料3 も関係しますので、資料3 に基づき、担当からあいち食育いきいきプラン 2020 の主な取組につきまして、それぞれご紹介をさせていただきます。

【事務局】

資料3 により説明。

議長

ただいまプラン 2020 における食育の目標の進捗状況及び主な取組について御説明を申し上げます。

このプラン 2020 に関して、御意見を賜りたいと思います。

御意見のある方は挙手をお願いします。

マイクをお持ちいたしますので、団体・組織名とお名前をおっしゃってから御発言をお願いします。

【意見等】

【酒向委員】

資料 3 の野菜の摂取量向上に向けた取組ということで、様々な取組をされているということを御報告いただきありがとうございます。

また、県でやっている事例ということで、私も詳しくは知らないですが、他県では地産地消ということで、コンビニエンスストアと行政がコラボしながら、野菜摂取量向上に向けた取組が実施されていると伺っております。

やはり、どうしても若い女性、男性の方もそうだと思いますが、昼食など野菜をとるためにコンビニを利用される方が多いかと思っておりますので、身近な存在ということで、コンビニと愛知県で取組をできたらよいのではという御提案です。

【加納委員】

私の専門は学校教育でありまして、日頃から愛知県を中心とした小学校・中学校の授業作りに取り組んでおります。

食を取り入れた題材の授業というのは、大変子供たちにも学びが深くなるということをすごく感じており、そこで自分が感じた見地だとか感じたことを話させていただきます。

うまくいっているところの取組は、例えばやはり地域との連携はとてもうまくいっていると感じています。

授業の中に参加しているのは担任の先生だけではなく、栄養教員の先生はもちろんのこと、例えば実際に自分が愛知県の田原市のある学校に行った時には、野菜ソムリエが授業に参加して子供と授業を作ったりだとか、或いは家庭の協力があったり、先ほど郷土料理の取組の説明の中でもありましたが、実際に子供たちが作った地域の特産物を利用した料理を発信しており、地域に根差した食材を上手に活用しているなど感じました。自分は不勉強なこともあり、今回説明のあった取組が目から鱗のことばかりだったので、これを上手に発信して、多くの学校、親、家庭や地域にやっていただきたいかなと思っています。

ちょうど教育課程が新しくなる時期でもありますし、そこでは、学校カリキュラムを作る 3 つ目の側面として、「人的物的環境を生かして」というものがありますので、学校もそちらのところに注目している時代が来ているかなと思っています。

また、子供が目指すところで、自分の生き方だとか生活に根差した、学んだことを、そこで学んだということで終わるのではなくて、そういった自分の生き方、生活に根差していくことを考えると、やはり食は切っても切り離せないのかなと感じています。うまくいっている取組がありますので、それをさらに高めるために自分もできることを発信していきたいかなと思っています。所存でございます。

【小濱委員】

食育プラン 2020 の 17 ページの「食育の実践による健康で活力ある社会の実現」目指すべき姿の 3 番目ですが、「食を通じて環境に優しい暮らしを築きます」という項目で、確かに食育は「食べる」の視点も大切ですが、今、食は環境にかなりの影響をおよぼしているということが社会的に広まっており、食に関しての環境問題についても、食品を扱う組織として私たちコープあいちが活動の原点を見直しております。

27 ページの「食を通じた環境にやさしい暮らしを築くための目標」のところに、無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的にとの項目がございます。

これは現在、家庭での食品ロスが問題になっている中で、取り上げられている項目だと思いますが、食品ロスが約 650 万トンという報告がメディアを通じてあちらこちらでされており、やはり家庭での発生が多いということへの問題提起と思います。食ですので安易な再利用ということは課題が多く、難しいかと思うのですが、ぜひここに、自分たちで廃棄するのではなくて、フードドライブや、フードバンクの活用といった、個人や組織で活用できるシステム、捨てるのではなくて、環境のために活用を考えるとの視点を食育いきいきプランで取り上げたらどうかと考えます。

ここにたくさんの専門の先生がおられますので、こういった視点に関してどういうお考えをお持ちなのか、少しご意見を伺えればと思います。

議長

ただいまのご意見に関して、委員の方、事務局から、何かご意見がございましたら、自由にお願ひしたいと思うのですがいかがでしょうか。

事務局の方、このフードバンクの活用や何かそのような取組等をお考えの方、もっと簡単に言うと今フードバンクを予定しておられる方とか、そういう方はお見えになりますでしょうか。

【小濱委員】

せっかくの機会ですので、コープあいちの取組みをご紹介します。

いわゆる商品の販売に関しては 3 分の 1 ルールというのがあり、このルールが大量の食品ロスの原因と考えられます。コープあいち、コープぎふ、コープみえの 3 生協では、一般食品やパンや冷蔵品、今年からは冷凍品、生鮮の青果も含めた 5 つのカテゴリーで、約 1 年間で 13 万個、重さにして 46 トンの量のまだ食べられるが賞味期限の関係で配達できない食品ロスがありました。そこで 2017 年度は認定 NPO 法人セカンドハーベスト名古屋というフードバンクを活用し、配達できなかった食品を有効活用しています。

2018 年の 9 月時点の個人支援活用件数は、430 家庭に提供されたということで、それは児童養護施設や母子家庭とか、それから生活困窮者、こうした本当に食に困っている人たちが食の循環というものを通して、いわゆる廃棄ではなくて生きた活用になるという取組をしておりますので、こうした取組を県としてどうとらえてくかというところを御質問させていただきました。

議長

県としてということでございまして、大変すみませんでした。県としてということ、誰か御発言ありますでしょうか。

【事務局】

直接のお答えになるかどうかは難しいところですが、最初のお話にありましたフードドライブについて、去年、私もそういう健康に関するものや食に関する取組で県主催の行事に何回か出ました。その中でフードドライブを实际やっているところもありまして、そこにたくさんではなかったと思いますが、家庭でそういう余った食材とかが届けられているというのを確認しております。

実際どれぐらいの量があったかは、私の方で把握はしていないところでありませう。

それから、食育消費流通課として食品ロスについてどのように取り組んでいるかお話しさせていただきますと、啓発用の資料を作り、それに基づいていろんな行事の中で配布したりしています。

先ほどもお話が出た農林水産フェアなどで、そういうものを配布したりして、食品ロスの意識を高めるための啓発に努めているという実態です。

議長

この辺りのところはまた研究をさせていただきたいと思っております。

その他、御意見はございますでしょうか。

【鳥居委員】

昨年からのいろんな食育の取組をさせていただいたのですが、今間近に迫りました6月2日の第70回全国植樹祭が、新しい令和の天皇の最初のお仕事としてこの愛知県に来ていただけるのですが、そこでおもてなし弁当を提供するということうで、1万食あまりのお弁当のメニュー、お弁当のレシピを監修させていただきました。お手伝いさせていただきました。

その中で特に愛知の郷土料理というのをすごく意識して、今までの他県に負けないほどおいしいというか一応強調した、そういったお弁当づくりを今まで調製させていただきました。

今回もしも行かれる方があれば、弁当を楽しみに食べていただけたらと思ひますし、その弁当を食べていただいて、全国に愛知の郷土料理の入った料理を見ていただきたいなと思ひます。

また、昨年、子ども食堂というのを愛知県調理師会といたしまして4回ほど開催させていただきました。

その中で、こちらとしてもすごく勉強になったな、よかったなと思ひるのは、子供たちが本当に素直にきていただいて楽しく食べていただいたということです。

大学生のボランティアの人たちとも一緒に遊んだりすることもできたのですが、我々としてはよかったのかなと思ひます。

愛知県調理師会は本当に全国でも珍しいほど和食洋食中華がすごく仲がいい団体なので、一つにまとまって会として、今回も4回のうち3回は和食、洋食、中華と順番に、最後は和洋中全部のバイキングといった料理でこれが子ども食堂に出す料理なのかというような感じで出させてもらいました。

それがよかったのか悪かったのかよくわかりませんが、ただ調理師としてのプライドというか、我々がつくればこんなものができるというか、自分たちの自己満足で作った部分もあるのですが、ただ、地元の子供たちが来ていただいて、今までナイフ、フォークをもって食事することもなかった子供たちが食べていたり、それから目の前で中華のコックと一緒に点心を作って食べたり、私も参加させていただいて、愛知の郷土料理ということで子供たちと一緒に作って一緒に

食べさせてもらいました。

そういう機会を踏まえて、そういうお子さんたちにも、郷土料理を広めさせていただいたのですが、私たちが取り組んだのが丸田町の辺りで、中区、中心街にあるものですから、そちらに来ていただける子供たちっていうのに限りがあるので、今後の取組としてどうやって子供たちに子ども食堂が開催していますよということを案内できるかということが最大のテーマになっているような気がします。

本当に知っている子しか来ないということで、毎回大体同じようなメンバーになってしまうので、もっともっと多くのここに来ていただきたいというのが一つです。

あとはここ1年間、先ほどから愛知の郷土料理レシピ50選もかかわらせていただいた関係で、いろんところで講演とか料理講習に呼んでいただいております。

昨年も、岡崎の方で農村輝きネット・あいちの集いに呼んでいただいたのですが、すごく反響もあったとお聞きしております。

それと、昨年末、愛知県の学校給食会の集いでも一緒に郷土料理を作って、その後、愛知の郷土料理ということで講演させていただいたり、愛知県の高等学校家庭科研究会の先生方を集めまして、約100人ぐらいなのですが、そこでも郷土料理の話をしていただきました。

その中でやはり皆さん郷土料理と聞いて何を思い浮かべますかという質問を毎回投げかけてきました。

年配の方たち、昭和に生まれて、昭和に育ってきた方達はほとんど郷土料理ということには馴染みがあるわけですから、すごく反応もいいという感じがありました。

ところが、平成というよりも、2000年以降に生まれた方達に郷土料理という話をすると、もう死語になっているんですね。

驚いたのは本当にそこで、郷土料理という言葉自体がもう全然使われてない、説明して初めて、そういうことが郷土料理になるのか、郷土料理はそうなのかっていうぐらい、すごく取り方の差があるというか、それを今すごく痛感しているところです。

じゃあその郷土料理という言葉も聞いたことない世代が、僕も郷土料理の話をしてみんながどう受けとめるかと聞いたら、だからこそ、今その郷土料理を私たちの時代で、終わらせてはいけない、継承しなきゃいけない、そのためには、勉強していきたくていうのが、多くの今の10代の子達の意見でした。

それを聞いてすごく安心しましたが、自分ができる限り、いろんところでの郷土料理の発信をさせていただきたいと思いますし、愛知県調理師会としてもそのことに関してできる限りは、お手伝いさせていただきたいと思っておりますので、いつでも言っていただけたらと思います。

議長

調理師会ならではの取組ということで、このような会議のときに、ぜひ私のところでもやって欲しいと委員さん相互で情報交換をしていくと、より良い取組に発展するのではないかと今聞いておりました。

その他、御意見はございますでしょうか。

【内堀委員】

野菜の摂取の向上に向けた取組ということで、愛知県は割と野菜の生産量が多いはずなのに、摂取量が特に男性において、全国で最下位ぐらいだと思うのですが、その原因がわかれば教えていただきたいということが1点と、もう一つ野菜の摂取量が現状272グラム、目標350グラム以上と書いてあるのですが、これは350グラム以上取れば健康になるというエビデンスがおありになるのか、野菜を摂取すれば摂取するほど健康になるというエビデンスがあるのであれば教えていただきたい。

【事務局】

男性の野菜摂取量が少ない要因ですが、先ほど申し上げましたようにいろいろ検討等を行っておりまして、昨年度に関しましても野菜を食べる頻度について調査等を行っておりますが、健康対策課として、これが要因だとお示しできるものは、まだ得られていません。

少しずつでも調査ができるのであれば行っていきたいと考えています。

野菜摂取量350グラムに関しては、こちらは国の目標値で、それに準じて設定させていただいて、例えば概ね350グラムであれば、いろんなところで健康になるであろうと、そういうところのエビデンスをもとに設定をしております。

【内堀委員】

愛知県というのは非常に健康で、健康寿命は女性1位で男性3位ですので、それが野菜を食べればもっと良くなるのか、食べるともっと悪くなるのか、その辺が知りたかっただけなのですが、エビデンスが曖昧だということみたいですね。

議長

健康寿命はたしかに愛知県は優秀だと思います。

野菜を多く取ればさらに健康寿命が延びるというようなエビデンスが出てくると良いと思いますが、難しいでしょうか。

野菜摂取量が増えて、健康寿命が伸びていけば、そういうことも考えられるかと思えます。

それでは、まだ次の議題もありますので、いただいた御意見を今後の参考にさせていただいて、取組を進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いします。

ウ 次期「愛知県食育推進計画」（あいち食育いきいきプラン2025（仮称））の作成について

議長

続きまして、議題（3）です。

次期の愛知県の食育推進計画の作成について事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料4により説明。

議長

次期の愛知県の食育推進計画の作成について御説明させていただきましたが、何か御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

挙手がございませんので、こちらから御指名させていただきますが、愛知学院

大学の酒井先生、御意見でも結構ですし、御質問でも何でも結構です。

【意見等】

【酒井委員】

食育の愛知県における推進ですけれども、愛知県の特徴として、ある意味、いろんな方たちが協力しながらやっている県というような気がいたします。

このいきいきレポートに関して、300近い数で取組がされておりまして、また、それ以外の報告されていない取組も数えるとかなりの数があります。

それが少しずつやはり深まってきていまして、単独でやっていたところが少しずついろんな団体と協力しながらやっていくようなそういう事例になって、さらには5年以上継続されています。

継続は非常に力になりますので、より深めていくみたいな、そういう方向に行っていると思います。

ただ、もっと深めていかなければいけないものも当然あると思ひまして、例えば、今、食の外部化が止められない脅威となっており、家庭の中で作るというよりはどちらかという外で食べたり、中食みたいなそういう中において、食育というのはどういうふうに取り組んでいけばよいかといった新しい方向性を出していかなければならない中で、愛知県は、この環境ということをすごく早くから取り入れております。

環境を整えていくということが今後、家庭から出て行ったものをもう1回家庭に戻していくという、そういう連携の中で非常に重要であり、実を言うと行政が取り組むべきことと、それから我々自らがやっていかななくてはいけないことの両面から攻めていかないと、先ほど出てきた食品ロスの問題にしても、行政としてこの法のもとでやっていけることと、ボランティアとしていろいろ取組めることは、違うと思います。

法でくくってしまうとちょっとやりにくいところが出て、いわゆる構成とか、色々な問題もありますので、そこも協力しながらですので、広く言えばいわゆる愛知の色というのは、サステナビリティですね。

いわゆる循環型と、それからもう一つは、持続可能な社会を私たちが幸せな暮らしをしていくということは、そういう新しい仕組みの中へ上手に食を通しての循環だから、そういうのは非常に大切だと思いますので、さらに今度の第4次計画がそこをさらに深めてできるように、皆さんで協力しながら、進められたら良いと思います。

議長

まさに先生のおっしゃられる通りで、食育とは非常に幅が広くて、それぞれの立場でやるべきことがあるということ、勉強すればするほど感じます。

それぞれの立場でのそれぞれの取組というのを、やはりもう少しうまくネットワーク化できたらとても良いものになると思いますので、そのようなものも含めながら、まずは今回の計画を達成していくのが第一でございますけれども、次期の計画でもそれらを深めていけたら良いと思っております。

エ その他

議長

(4) その他について事務局から何か発言はありますか。

【事務局】

ございません。

議長

全体を通して、御意見、御質問、御提案がございましたら、この機会にお願いできたらと思っておりますがいかがでしょうか。

【意見等】

【池田委員】

せっかくの機会ですので、皆様にお願いといたしますか、私、生活部というところで主に生活面という新聞の真ん中あたりにあるページを担当しています。そこは、食の問題、食育、食の安全、それ以外のものも、介護だったりいろいろあったりする中で、最近、食に力を入れており、食育月間に合わせて食育絡みの掲載をさせていただくことが多いです。

特に今年の初めぐらいから、食べきりのすすめという名前で掲載を行い、食品ロスの問題に、特に力を入れて取り組んでおります。

せっかくここにいろんな専門の方、いろんな団体の方がそろっていらっしゃるのので、これからいろいろ我々が取材をお願いすることもあるかと思ひますし、また委員の皆さん方から例えばこんな取組をしています、こんなことが今起きているよと教えていただけましたら、それを記事とすることで共有して、他の方にも伝えていくことができるかと思ひますのでお声かけいただければと思ひます。

議長

ありがとうございます。

発信力がありますので、皆様の取組を池田委員の方にお伝え、こちらの方の事務局の方にお話をいただければお繋ぎすることができます。

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思ひます。

その他にございますか。

それでは、御発言もないようですので、以上で予定をしておりました議事を終了いたします。

また、私達事務局の方へ御提案等をいただければ結構でございますので、ぜひいろいろな知見をいただけたらと思ひます。

委員の皆様方には議事の進行に御協力をいただき、本当にありがとうございます。

県といたしましては、あいち食育いきいきプラン 2020 に基づき食育の推進に全力を挙げて参りますので、皆様におかれましてはそれぞれの立場から食育を推進していただきますようお願いいたします。

※ 食育推進全国大会愛知県実行委員会設立総会の冒頭での知事挨拶（森岡副知事代読）

第 15 回食育推進全国大会の主催者を代表して、一言御挨拶申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃から県政の各般にわたり、格別の御理解と御協力を賜っております。

すことを、この場をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

愛知県では、食育基本法に基づき、2006年に「愛知県食育推進会議」を設置して以来、県民運動として「食育」を推進し、その着実な進展を実感しているところであります。

昨年7月の食育推進会議の場で申し上げたところですが、全国持ち回りで、毎年、食育月間である6月に開催されている「食育推進全国大会」に応募し、来年6月27日、28日の2日間、愛知県国際展示場、Aichi Sky Expoで開催することとなりました。

「食育推進全国大会」は、これまで進めてきた「あいちの食育」の成果を全国に向けて発信する機会であり、食育関係者の活動や連携の強化につながるものと考えております。

また、全国に誇る愛知の豊かな農林水産物の良さを県内外に広くPRし、需要拡大につなげる絶好の機会でもあります。

来年度は、現行の第3次愛知県食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン2020」の最終年度を迎える年でもあり、大会の開催を次期計画への大きなステップにして、「食育」を未来につなげていきたいと思っております。

この大会を成功させるために、日頃、食育の推進に御尽力いただいている皆様をメンバーとする実行委員会を立ち上げ、幅広い御意見をいただきたいと考えております。

本日はその設立と大会概要や事業計画などを御審議いただくこととなります。

限られた時間ではございますが、皆様方には忌憚のない御意見を賜り、実りある会議となりますようお願い申し上げます。

また、実行委員会の後には食育推進会議も予定されております。

推進会議では、昨年度の活動を取りまとめた「あいち食育いきいきレポート2019」や「あいち食育いきいきプラン2020」の進捗状況などを御協議いただきます。

先ほども申しましたが、現行のプランは来年度が最終年度になります。目標達成に向け、皆様とともにしっかり取り組んでまいりますので、引き続きの御理解、御協力をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

以上

会議録署名者

（ 内 堀 委 員 ）

（ 和 出 委 員 ）
